

令和5年度 全国高校生体験活動顕彰制度 「地域探究プログラム」

1 事業の概要

高校生の体験活動を通じた成長を目指し、「地域」を舞台に高等学校学習指導要領のキーワードである「探究」の手法を用いて学習を深める事業である。本事業は次の4つのプログラムから構成される。

(1) オリエンテーション合宿

指定されたカリキュラムに基づいて実施される、実践活動のための学びの場であり、地域探究プログラムの概要を知り、探究のプロセスについて学ぶ。また、実践活動に向けた計画を立てる。

(2) 実践活動

オリエンテーション合宿で学んだことをもとに、参加者自身が地域の課題を見つけ、解決に向けた取組を行い、報告書を作成する。

(3) 地方ステージ

実践活動での取組を発表し、全国ステージに進む代表者を決定する。

(4) 全国ステージ

地方ステージで選出された代表者が発表し、優秀者には各賞が授与される。

2 事業の目的（ねらい）

物事を探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力、課題を多面的・多角的に捉える力、聞き手に分かりやすく伝えるための技能を身に付ける。学校・地域・企業など多様な人々と協働しながら地域・社会にある課題解決に向けた取組を行うことで、郷土や自然に愛着をもち、新たな価値を創造する高校生の育成を図る。

3 活動期間

令和5年7月27日～令和6年2月11日

4 活動場所

(1) オリエンテーション合宿・実践活動(令和5年7月27日～)

愛媛県立長浜高等学校及び学校周辺

国立大洲青少年交流の家

(2) 地方ステージ(令和6年1月14日)

国立大洲青少年交流の家

(3) 全国ステージ(令和6年2月11日)

国立オリンピック記念青少年総合センター



5 参加者

愛媛県立長浜高等学校1年生 51名

6 講師

前田 眞 氏 (国立大学法人愛媛大学社会連携推進機構 教授)

国立大洲青少年交流の家 職員



7 活動内容（参加者の様子を含む）

(1) オリエンテーション合宿

1日目は長浜高校周辺でフィールドワーク調査を実施した。生徒は前田氏に指導していただきながら、商店街や歴史文化施設の現地踏査や聞き取り調査等を行った。活動を通して、生徒は長浜地区や長浜高校が抱える課題を改めて見つめ直すことができた。1日目の夕方から当施設に会場を移し、フィールドワーク調査で見つけた課題等について各班でまとめた。そして、2日目午後「中間発表会」という形で2日間の取組について発表を行った。2日間の合宿を通して、現時点の課題を班で共有したり、今後どのように実践活動をしていくか見通しをもったりすることができた。また、評価委員の助言を基に、よりよい実践活動をしようという意欲が高まった。



(2) 実践活動

人口や観光客の減少による地域の活力喪失を多くの班が指摘し、この課題を解決するために何ができるかを考え、実践活動に取り組んだ。駅のイメージ向上を狙い水生生物をかたどった座布団を駅に置いたり、寺でイベントを開いて誘客を目指したりするなど、全ての班が実際に行動に移して実践活動をすることができた。この取組は、実践活動報告書としてまとめ、本部に提出した。書面審査を経て、8つの班が地方ステージに出場することとなった。



(3) 地方ステージ

評価委員、当施設の職員、報道関係者が出席する中、出場した8つの班はそれぞれの取組の成果を発表した。評価委員の二木信輔氏と前田眞氏からも、地域課題の解決に向けて主体的に取り組む生徒達の姿勢を高く評価していただいた。最優秀賞には、オンラインによる個別水族館開催を実践した『「長浜」生き物好きの聖地化プロジェクト～オンラインでみんなの心を長浜に～』が選ばれ、班員の4名が全国ステージに出場することとなった。



(4) 全国ステージ

全国からグループ部門の8団体と個人部門の4名が、取組の成果と課題について発表した。四国ブロック代表の長浜高校は、取組が地域ぐるみで行われていたり、今後の展望を見通していたりしたことが高く評価され、「文部科学大臣賞」を受賞した。

8 事業の成果

生徒一人一人が地域の課題は何かを考えて、課題解決のために行動に移すことができた。また、実践活動中に集客等で失敗したことは、原因を追及して改善するなど、よりよい取り組みにしようという姿勢が見られた。地方ステージでの各班の発表は、プレゼンテーションの方法や表現の仕方を工夫することで、より分かりやすく伝えようとしていた。この事業全体を通して、物事を探究する姿勢や主体的に取り組む態度、課題を多面的・多角的に捉える力、聞き手に分かりやすく伝えるための技能を身に付けることができた。

9 事業の課題

今年度は愛媛県立長浜高校のみの参加となった。より多くの高校生が取り組むことができるよう、参加者が参加しやすくなるようにオリエンテーション合宿の内容の改善をしたり、他校への周知・広報を行ったりして、探究の輪を広げていきたい。

（担当：企画指導専門職 岡本 和也・二宮 啓）